

日中福祉交流コーディネーターが見る 上海福祉の今

日中福祉プランニング代表 王青



プロフィール
中国上海市出身。1989年留学のため来日。語学学習を経て大阪市立大学経済学部卒業。95年より日本企業介護福祉関係部署に勤務。上海市民政局や、上海市障害者連合会などとの長年の親交があり、上海市と日本の介護福祉分野の交流・ビジネスを支援してきた。2002年7月フリーに。福祉分野を中心に日中のコーディネーターとして活動中。市場調査、マスコミ取材、ビジネス支援、視察企画など多くの案件を実現してきており、上海福祉分野に関しては第一人者である。

上海市中心街の下町に約30年前に上海市政府によって建てられた公立の高齢者施設（120床）があります。入居者の介護度は高く、寝たきりの方が多いのが特徴です。この施設では、今年から施設運営・管理システムを全面導入しました。職員全員にスマホを配布し入居者の様子や介護記録、食事や排泄、服薬内容をを入力してもらいます。そしてその情報はデータセンターに集約されます。これまで職員は介護業務の後に、記録業務を手書きで行っていました。

スマホで業務効率化図る

しかし、後で記録するとになると、本来記録すべきことを忘れてしまうなどの記入漏れが避けられませんでした。また、読み書きが苦手な職員もいるため、勤務交代の際に、うまく引継ぎができず、業務が円滑にまわりませんでした。

しかし、管理システムの導入により、職員がスマホ画面に表示される分かりやすい図や文字で、一日の施設内の動きを共有できるようにしたほか、仕事の役割分担も明確になりました。

ケア、トイレ介護など、介護内容が9項目に分かれており、一つの業務ごとに、職員はスマホに入力します。入居者のベッドに設置されているNFC（近距離無線通信）にスマホを当てると、項目と実施時間が記録され、何時に何をしたかが一目瞭然です。

ベッドには見守りセンサーがあるため、トイレの回数や時間、寝返りの回数まで把握できます。施設長は「業務がはかどおり、大幅に効率がアップしました」と喜びを隠せないうる様子でした。それだけではありませぬ。このシステムは、入居者の基本情報や健康状態、服薬管理、食事内容の情報も保存されているほか、施設の医務管理や今年上海市で始まった介護保険の請求など様々な機能がついています。そして何よりも、職員の仕事管理と入居者の見守り、この2つの大きな役割を果たしてくれることとがメリットだといえます。規定された時間内に業務を終えなかつたりする、システムが知らせてくれます。また、勤務態度を評価する時には、この情報が大きい役に立ちます。日々の変化はこれまでに以上に目まぐるしく遂げていき、今年もその変わり様には片時も目を離せません。